

## 平成25年秋の外国人叙勲 ジョン・トーマス・シーファー元駐日米国大使の旭日大綬章受章

平成25年11月3日  
在米国日本大使館

平成25年11月3日（日本時間）、日本政府は、平成25年秋の外国人叙勲として49名の受章者を発表し、その中で元駐日米国大使のジョン・トーマス・シーファー氏への叙勲が決定しました。同氏は、日米の相互理解及び日米関係強化への貢献が認められ、旭日大綬章を受章しました。

- 賞賜： 旭日大綬章
- 功績概要： 日本・アメリカ合衆国間の友好親善及び相互理解の促進に寄与
- 氏名： ジョン・トーマス・シーファー（John Thomas Schieffer）（男，66歳）
- 主要経歴：
  - 元 駐日米国大使
  - 現 米日カウンシル評議員
  - 現 マンスフィールド財団理事
- 国籍・現住所：アメリカ合衆国・テキサス州ファートワース

シーファー元駐日大使は、昭和45年にテキサス大学オースティン校政治学部を卒業、昭和47年に同大学国際関係学を修了しました。昭和48年テキサス州議会下院議員に初当選し25歳で政界進出を果たしました。

シーファー大使は、その後弁護士業、テキサス・レンジャーズ社長及びゼネラル・パートナー、コンサルティング会社経営に携わった後、駐オーストラリア大使を経て、駐日大使に就任しました。在任中は、極めて親しい友人であるブッシュ大統領と連絡を緊密に行い、政治・経済等の分野における日米間の諸課題の解決等を通じて、日米関係の向上に尽力しました。駐日大使退任後も、シーファー氏は、知日派の一人として、日米間の人的交流・知的交流、米国における対日理解の促進に引き続き貢献しています。

特に、シーファー大使は、天皇皇后両陛下のサイパン島への慰霊訪問の実現、在日米軍再編問題や北朝鮮による拉致問題等への積極的な取組を通じて、日米間の様々な分野で協力関係強化に多大な貢献を果たし、両国関係を「日米関係が歴史上最も成熟した二

国間関係の一つ」と位置付けられるまでに強化させることに貢献しました。また、日本国内のみならず、米国においても多くの講演・スピーチ等を積極的に行い、日米間の相互理解促進にも尽力しました。このような大使の積極的な活動の結果、日米両国民の双方に対する親近感・信頼度等は大きく向上しました。

駐日大使離任後においても、米日カウンシル評議員として日米間の人的交流、経済関係強化、東日本大震災後の震災復興支援に携わったっているほか、マンスフィールド財団理事としても日米間の文化・人物・知的交流に尽力しつづけています。また、シーファー大使は、平成24年の日米草の根交流サミット・ダラス大会実行委員長として、被災地の青少年を招待し、ホームステイ等青少年交流の場を提供するとともに、米国民に対する震災復興のアピール、日本文化紹介も行いました。さらに、日経CSISバーチャル・シンクタンク・アドバイザーとして日米関係強化に向けた提言を行い、日米関係の強化に貢献しているほか、様々な機会に講演等を積極的に行い、現在でも米国における対日理解促進、日米関係の一層の強化に貢献しています。

(了)